



上智大学創立 100周年  
上智短期大学創立 40周年  
上智社会福祉専門学校 50周年



## PET (フィリピン体験学習旅行)

No. 22

### 1. フィリピン体験旅行の始まり

上智社会福祉専門学校（以下社専）生のフィリピン体験旅行が始まったきっかけは、1979年に上智大学のヨセフ・ピタウ学長（当時・以下同じ）から、ハビエル・ガラルダ校長に「オランダの企業から寄付が貰えるので、社専で、アジアへの福祉の研修旅行のようなものを企画して欲しい」と依頼されたことである。

フィリピンでの在外研究を経験した井上英治氏（社専講師・上智大学教授）の提言もあり、ガラルダ校長自身が学生の体験学習の可能性を調べるために、フィリピンに渡った。そして、現地の教会関係者やソーシャルワーカーと相談して計画を立て、1980年3月6日から20日の日程で、第1回「フィリピン見学実習旅行」が催行されることとなった。

ツアー参加者は社専の学生を中心に、卒業生など36名で、ガラルダ校長、井上氏が引率した。旅費の一部にオランダから寄付された奨学金を充てることができたため、参加者の経済的負担は軽減された。旅程はマニラ、ダバオ、セブの3市を訪問し、現地でのホームステイ、養護施設やマザーテレサの「死を待つ人の家」などの訪問、合間に市内観光や海水浴などのレジャーの日程も組まれていた。

このツアーは多くの参加者の心に深く残るものとなり、体験学習として期待通りの効果が得られた。そして、翌1981年3月に第2回（マニラ、バギオ）、同年8月に第3回（マニラ、セブ）が催行された。



### 2. 継続的な活動へー参加者の組織化ー

1980年9月に、第1回ツアーの参加者により、タガログ語のパンタイパンタイ（お互いに対等という意味）から取った「パンタイの会」がつくられ、その年の社専祭で、ツアーの写真展、現地への資金援助を目的としたバザー、フィリピンが抱える社会問題についてのスライド上映やトークショーを実施した。その後2年ほどの間、ツアーの報告会や社専祭でのバザーが、「パンタイの会」の主催で続けられていった。

1982年10月、同年2月に催行された第4回ツアーの参加者から、全部のツアーメンバーを合わせた組織をつくるのが提案され、実現に向けて動き出した。第1回からの参加者に呼びかけて賛同者を募り、何回かの会合を重ねて準備が進められた後、1983年3月に「ハロハロの会」が発足した。ハロハロとは、タガログ語で「ごちゃごちゃ」「まぜこぜ」の意味で、カキ氷にゼリー、フルーツ、甘く煮た豆や芋、アイスクリームなど、色々を混ぜて食べるフィリピンのデザート「ハロハロ」は、1990年代に一時日本でもブームになったことがある。ツアー参加者はフィリピンで、本場のハロハロを味わい、その「ごちゃまぜ」が気に入って、会の名称にしたということである。

「ハロハロの会」の活動内容は、前身のパンタイの会を引き継ぐ形でバザーの開催、参加者

第1回 フィリピン見学実習旅行より（上）現地スタッフと参加者。後列左から3人目にガラルダ校長、同右端が井上先生（下）訪問先の子どもたちと参加者

同士の交流、ツアーのサポートなどで、後には「ハロハロの会」がツアーの主催団体としての役割を持つことになった。

フィリピン体験旅行を、PET (Philippine Exposure Tour) と称するようになったのもこの頃からで、催行回数を「PET 4」「PET 5」などと表して、現在まで続いている。なお、E=Exposure は、後には Experience を使用するようになり、フィリピン体験学習旅行 (Philippine Experience Tour)=PET の名称が定着した。

### 3. PET の継続、ハロハロの会の発展

ハロハロの会が設立された 1983 年は、催行予定の PET 6 が、引率者の都合などにより翌年 3 月に延期された。また 1986 年は、2 月の政変 (エドゥサ革命。これにより、20 年間続いていたマルコス独裁政権が終焉を遂げた) のため、PET が中止された。しかし、このような中断はあったにせよ、その後約 30 年に渡り、おおむね 1 年に 1 回のツアーが催行されている。

回数を重ねることでツアーの内容は精査された。マニラとセブが主な訪問先となり、社会福祉施設やホストファミリー、案内役の現地スタッフなどとの、良い関係が持続されていった。

1987 年に社専キャンパスミニストリーが始まると、PET の引率もその活動のひとつとして位置付けられ、1990 年代からは、キャンパスミニストリーの代表を務めたヘネロツ・フローレス神父 (非常勤講師・キリスト教学担当) が、多くの PET を引率した。

ハロハロの会は、一時活動が低迷していたが、1995 年に再開、さらに 2000 年には、PET に参加経験のある卒業生が中心となって「フィリピン支援 NGO ハロハロの会」が結成され、セブ市にある「ルルドの聖母教区教会」が運営する「フィーディング(給食)センター」の支援などに、活動の幅を広げていった。



PET22(2003年) マニラの子どもの家で  
後列中央に、引率のフローレス神父

このような経過の中で 2006 年には、PET25 周年記念行事として、歴代の参加者に呼びかけ、現地スタッフを招いてのイベントが開催された。

### 4. 現在の PET

開始から 30 回目の「PET30」は、2011 年 3 月 5 日から 15 日の日程で催行された。ハロハロの会は現在も支援活動を継続し、5 年前からはより深く現地の子どもたちとのかかわりを希望する人を対象とした、オリジナルツアーも実施されている。そして、ハロハロの会のスタッフを始め、在学中に PET に参加したことがきっかけで、海外に興味・関心を持つようになった社専卒業生は少なくない。

近年の PET について、社専生の参加が少なくなっていて残念、と度々言われる。仕事を持ちながら学ぶ社専生にとっては、時間や費用の点で参加が難しい等の理由はあると思われるが、お金では買えない多くのものが得られるこのツアーに、ひとりでも多くの社専生の参加を、と関係者は期待している。



ハロハロの会のニューズレター。この号では 25 周年記念イベントの様子が紹介されている